

数学

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いながら数値に着目し、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<p>ア 定期考査、小テスト等の結果からは、基礎的な概念の理解や基本の計算力が不十分な生徒の割合が少くない。</p> <p>イ 定期考査の結果から、「思考・判断・表現」の観点に関する問題の正答率が低い。投げ出さず粘り強く考える生徒は多いが、学んだことを活用的に表現することを苦手とする生徒が多い。</p>	<p>ア 習熟度別グループ毎に適した教材を用意する。「満点テスト」によって意欲向上を図り、繰り返し学習を続けることで基礎基本の定着を図る。</p> <p>イ 習熟度別グループ毎に適した課題を設定し、タブレット端末や黒板などを使って、数学の内容をイメージで捉えられるように工夫する。問題解決の方法をお互いに説明し合う機会をつくる。</p>	<p>ア 満点テストは、各習熟度グループ毎に実施し、計算力テストは学年で学期に1回実施する。</p> <p>イ 身のまわりの問題を解決する問題や章末問題を活用して実施する。</p>	習熟度に応じて満点テストを実施し、長期休業中に計算力の課題に取り組み、繰り返し学習を続けることで、基礎・基本の定着を図ることができた。また、話し合い活動により、発展問題を意欲的に解決しようとする生徒の増加が見られた。
第2学年	<p>ア 児童生徒の学力向上を図るための調査結果から、授業の理解度および数学への意欲についての肯定意見が東京都平均を超えているが、筆記試験の数値に表れていない。</p> <p>イ 定期考査の結果から、課題の数値に着目しながら、文章を読み取り、既習事項を活用して解決しようと考察することを苦手とする生徒が多い。</p>	<p>ア 定期的に比較的解きやすい「満点テスト」を定期的に変更し、自信をもたせ、基礎・基本の定着を図りつつ、それらの学習が定着するような家庭課題を出し、習熟度を向上させる。</p> <p>イ ICT 機器やタブレット端末の活用により、お互いの考えの共有や授業の効率化を図りつつ、自身の学習状況を把握するための記録をとらせ、自身の考えを表現できる場面を設定する。</p>	<p>ア 満点テストは、習熟度グループ毎に定期的に変更し、家庭学習用の課題を適宜出す。</p> <p>イ ICT、タブレット端末を単元内容に応じて活用し、説明等の言語活動を章末に実施する。</p>	定期的な満点テストの実施に加え、長期休業中の課題の充実を図ることにより、基礎・基本の定着を図ることができた。また、話し合い活動により、発展問題の解決能力を高めることができた。
第3学年	<p>ア 全国学力・学習状況調査の結果から、知識や技能が身に付いている生徒と定着していない生徒の差が大きいと考えられる。</p> <p>イ 全国学力・学習状況調査の結果から、「思考・判断・表現」の観点の記述問題の正答率が全国や東京都をおおむね上回り、粘り強く考え、表現できる生徒が比較的多いと考えられる。</p>	<p>ア 習熟度別グループ毎に適した教材を用意する。また、定着グループ等には「満点テスト」によって意欲向上を図り、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>イ 習熟度別グループ毎に適した課題を設定し、タブレット端末や黒板などを使って、解き方を相互に説明し合う機会をつくる。</p>	<p>ア 満点テストは単元ごとに2～3回実施する。</p> <p>イ 身のまわりの問題を既習事項を利用して解決する問題や章末問題を活用して実施する。</p>	習熟度に応じて満点テストを実施し、基礎・基本の定着を図ることができた。また、思考力を高める取組を増やし、発展問題に意欲的に取り組む生徒の増加が見られた。

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートで生徒一人一人が問題を解く。解答を提出箱に提出させ、それを採点し、個々の理解に応じた解説やポイントを提示し、個別最適な学びを実現する。 ・様々な解き方をタブレット上で共有し合い、他生徒の考え方から新たな考え方を習得することにより、深い学びにつなげるとともに、協働的な学びを実現する。 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を明示し、毎回の授業へ見通しをもたせる。また、新たな単元の導入時に全体の学習の流れを説明し、単元の学習内容への見通しをもたせる。 ・単元の導入部分や発展的な学習の際に、イメージや動きのある視覚的なとらえ方ができるように、ICT や大型展示装置を使用する。
--	--